

平成 21 年 4 月 27 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：平成 19 年～平成 22 年度

課題番号：19401030

研究課題名（和文） 東北アジアにおける定着的食料採集社会の形成および変容過程の研究

研究課題名（英文） Research of the Formation and Transformation Process of Sedentary Food Collector 's Society in Northeast Asia

研究代表者

大貫静夫（ONUKI Shizuo）

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究者番号：70169184

研究代表者の専門分野：考古学

科研費の分科・細目：人文学 A・考古学

キーワード：考古学、ロシア、アムール川下流域

## 1. 研究計画の概要

（1）アムール川下流域は極東平底土器の一角を占めており重要な地域であるが、いまだ研究の遅れた地域でもある。日本の縄文時代に対応するアムール川下流域の新石器時代はその最も基本となる編年すら不明確である。そのため、当該地域の新石器時代から初期金属器時代にかけての編年を確立する。明らかにする点は、アムール川下流域の新石器時代から初期金属器時代における食料採集民の生業活動と集落形態の変遷である。

（2）北日本とアムール川下流域との関わりを明らかにする。北海道東部の縄文時代早期やサハリン南部の新石器時代には、石刃鏃文化と呼ばれる、大陸との関連が考えられている段階がある。ところが、それに対応と考えられているものは、アムール川中流域や沿海州の新石器時代遺物群であり、もっとも肝心のアムール川下流域の対応する段階は分かっていない。これを明らかにする。

（3）アムール川下流域にはときにシベリア地域のより北方の文化が波及することが知られている。アムール川下流域は、極東地域と東シベリア地域の接点であり、東シベリア系の文化がアムール川下流域でどのような動きをしたのかを、具体的な発掘資料をもとに把握する。

この三つが本研究課題の大きな柱である。

## 2. 研究の進捗状況

（1）第一の課題では初年度と二年度は新石器時代から鉄器時代にかけての文化遺物が層位的に出土するマラヤ・ガバン遺跡を調査し、新石器時代から鉄器時代にわたる土器・石器を層位的に分離することができた。

また、それぞれに伴うカーボンから年代測定を多数実施した。この両者の結果により、アムール川下流域の文化変遷を確立することができた。

（2）多層位遺跡は編年には有効であるが、集落構造の解明が十分にできなかったことから、第2の課題の解明のために第3年度はアムール川下流域の新石器時代の代表的なコンドン文化期の単純遺跡を選び、発掘調査をおこなった。その結果、石刃鏃を伴う良好な一括資料を得ることができ、現在分析中である。

（3）第3の課題についてはマラヤ・ガバン遺跡でシベリア系統の新石器文化に属する土器を多量に検出し、これまでその時期について混乱する研究状況があったが、それが下流域のマレイシェヴォ文化の段階であることを明らかにした。

## 3. 現在までの達成度

上に記したように、大きな柱となる三つの課題についてはこの三年間の発掘調査でそれぞれ初期の大きな目的は達成されたと言える。集落や生業活動についてはこれまでの発掘資料を詳細な分析を今後行うことで目的に近づけるようにする。

## 4. 今後の研究の推進方策

初期の大きな目的はほぼ達成されたので、最終年度ではアムール川下流域でこれまでの考古学的調査がほとんどなされていない地域を踏査して、下流域内での地域性や日本列島と結ぶ経路を考える予定である。

また周辺地域との比較研究のために北に

隣接するオホーツク海沿岸地域の資料を収集するためにロシアのマガダンを訪れる予定である。同時にこれまでに調査した資料の分析を進め最終的な報告書を作成する予定である。

5. 代表的な研究成果  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

大貫静夫 2009 「挾婁の考古学」『国立歴史民俗博物館研究報告』151,129-160頁。

〔学会発表〕(計5件)

大貫静夫他 2010 「2009年度クニャーゼ・ヴォルコンスコエ1遺跡の調査について」『第11回北アジア調査研究報告会要旨集』21-24頁。

森先一貴・大貫静夫他 2009 「マラヤガバニ遺跡における考古学的調査(2,008年度)」『第10回北アジア調査研究報告会要旨集』5-8頁。

国木田大・大貫静夫他 2008 「マラヤ・ガバニ遺跡の年代評価(2007年度)」『第9回北アジア調査研究報告会要旨集』34-37頁。

福田正宏・大貫静夫他 2008 「マラヤ・ガバニ遺跡における考古学的調査(2007年度)」『第9回北アジア調査研究報告会要旨集』30-33頁。

福田正宏・大貫静夫他 2008 「東シベリアとアムール下流域との先史狩猟採集民間にみられる交渉関係史の解明」『日本考古学協会第74回総会研究発表要旨』100-101頁。

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：

発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕